



IWATACHIZAKI SUSTAINABILITY REPORT

2023 - 2024

IWATACHIZAKI SUSTAINABILITY REPORT 2023 - 2024

岩田地崎建設株式会社 IWATA CHIZAKI INC.

〒060-8630 北海道札幌市中央区北2条東17丁目2番地 TEL 011-221-2221, FAX 011-222-7682 URL <https://www.iwatachizaki.jp/>
2,Kita 2-jo Higashi 17-chome, Chuo-ku, Sapporo Hokkaido 060-8630 Japan TEL +81-11-221-2221, FAX +81-11-222-7682



この印刷物は北海道の風力で発電された
グリーン電力で印刷されています。



岩田地崎建設株式会社



健全な地球を 未来へつなぐための 私たちの行動目標”です

世界には多くの課題があふれています。その中でも特に重要な課題について『17のゴール』を設定し、全世界で取り組んでいこうと掲げているのがSDGs(持続可能な開発目標)です。



1 貧困をなくそう

世界中のあらゆる場所で、
あらゆる形の貧困を終わらせよう



世界中には貧困で困っている人がまだ数多くいるんだよ。世界中すべてのひとが生きていくのに困らない衣食住などの基礎的サービスを受けられるような環境を整備しよう。



2 飢餓をゼロに

だれもが必要な分の、栄養のある食事を食べられるようにしよう



飢餓に苦しんでいる人をなくすために、栄養が十分な食料の安定確保をしよう。そのため農業分野の技術開発、農作業の効率化をしていこう。まずは身近な食品ロスをなくすことから意識してみよう。



3 すべての人に健康と福祉を

すべての人が健康的に暮らしていくける仕組み・社会をつくろう



ひとりひとりが病気に関する正しい知識と予防方法を身に着けよう。そのための人材育成・教育を受けられる仕組みをつくり、世界中のすべての人が、適切な医療を適切な時期に受けられるような社会にしていこう。



4 質の高い教育をみんなに

だれもが公平に質の高い教育を受けられるようにしよう



世界中のすべての子供たちが無償で質の高い教育を受けられるような社会を作ろう。求める誰もが大学などの高等教育や技術教育など、生涯にわたり学び続けられる仕組みを作っていくう。



5 ジェンダー平等を実現しよう

性別を理由に不平等な扱いを受ける世界を変えよう

性別を理由に、差別や暴力を受けることをとめよう。政治や経済などの重要な意思決定の場に女性の意思を反映することで、性別に関係ない公平な仕組みづくりをしよう。女性だけでなく、すべての人がいきいきと自分の力を最大限発揮しながら働く社会にしよう。



6 安全な水とトイレを世界中に

衛生的な環境を保てる仕組みを広め、すべての人が安全な水を利用できるようにしよう

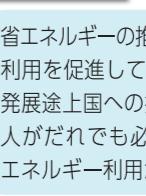


日本は水循環システムが確立し、非常に衛生的な国なんだ。このような上下水道の処理技術を広めることで、世界中のだれもが安心で安全な水を飲めるようにしよう。同時に水質汚染を防ぎ、水環境の生態系も守っていこう。



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

世界中のだれもが、必要な分のエネルギーを安心して使えるようにしよう

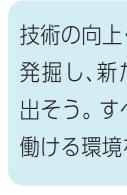


省エネルギーの推進とともに、再生可能エネルギーの利用を促進していくう。発展途上国への技術教育・提供によって、世界中の人がだれでも必要な時に必要な分だけ安定したエネルギー利用ができる環境を作っていくう。



8 働きがいも経済成長も

経済を持続可能に成長させつつ、だれもが働きがいある仕事ができるようにしよう



技術の向上・イノベーションを図り、新たな価値を発掘し、新たな需要創出や雇用を継続的に生み出そう。すべての人が働きがいを持って安心して働ける環境を作っていくう。



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

災害に強いインフラを整備して、持続可能な産業を発展させよう

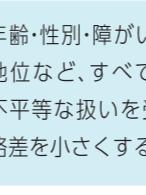


情報通信・エネルギー・交通・公共施設など、私たちの社会生活基盤となるインフラ。災害非常時などに損壊したとしても早急に復旧が可能な、質の高いインフラ整備を目指そう。



10 人や国の不平等をなくそう

ひとつの国の中でも、国と国の中でもすべての不平等をなくそう



年齢・性別・障がい・人種・民族・出自・宗教・経済的地位など、すべての人がその違いに関わらず、不平等な扱いを受けない世界を目指し、様々な格差を小さくする仕組みづくりをしよう。



11 住み続けられるまちづくりを

だれもが住みやすく、安全で災害にも強い持続可能なまちづくりをしよう



都市部に集中している人口を郊外に分散させる交通網の形成、都市空間の整備・管理方法を考え持続可能なまちづくりをしていくう。だれもが安心・安全で快適に利用できる施設・環境づくりを目指そう。



12 つくる責任つかう責任

作る人も使う人もお互いが責任を持ち持続可能な形で生産・消費しよう

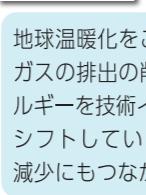


限られた地球の資源を大切に利用し、未来も同じクオリティ以上の資源を活用していくため、これまでの自分のやり方を見直してみよう。3R(リデュース・リユース・リサイクル)を進め、ごみの削減を推進しよう。



13 気候変動に具体的な対策を

再生可能エネルギーへのシフトは、未来のことではなく、近未来の目標



地球温暖化をこれ以上進めないように、温室効果ガスの排出の削減に努めて、化石燃料由来のエネルギーを技術イノベーションで再生エネルギーにシフトしていくう。昨今の激甚化している災害減少にもつながるよ。



14 海の豊かさを守ろう

海や海の資源・生態系を守り、持続可能な方法で利用しよう

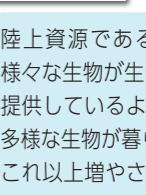


海は、私たちが地球上で生活することを可能してくれる重要なシステム。海洋汚染を防止し、海や沿岸の生態系を保全・改善する取り組みをしていくう。漁業や観光など、海の資源を利用するときは持続可能な利用方法にしよう。



15 陸の豊かさも守ろう

森林・山・河川などを大切にし、多様な生物が生息できる環境を守ろう

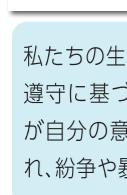


陸上資源である、森林・砂漠・湿地や河川などは様々な生物が生きていく上で必要な生活の場所を提供しているよ。多様な生物が暮らせる生態系を守り、絶滅危惧種をこれ以上増やさないようにしていこう。



16 平和と公正をすべての人に

だれもが平和に安心して暮らせる法で守られた社会の仕組みを整えよう



私たちの生活は、平和・安全・安定・人権そして法令遵守に基づいて成り立っているよ。すべての人が自分の意思を平等に伝えられる機会が与えられ、紛争や暴力・犯罪のない世界を目指そう。



17 パートナーシップで目標を達成しよう

世界の国々やひとりひとりが協力しあい、持続可能な世界をつくろう



2030年までに持続可能な開発目標(SDGs)を達成するためには、まずひとりひとりが意識改革をし、行動することが重要。でも、一人の力だけでは実現できない。産官学が連携し、パートナーシップを構築して、みんなの力を合わせて達成しよう。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは?

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。

SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

岩田地崎建設は、「安心で豊かな社会環境づくりに貢献する」というミッションのもと、永続的な社会・地球環境の構築を目指し、これらの計画を着実に実践していきます。

サステナブル社会実現のために取り組むべき課題を抽出し、解決へ向けた目標および指標(KPI)を設定しています。企業活動を通じて達成すべき目標を明確に示すと共に、関係者の皆さんにもその取り組み状況を年度ごとに報告します。

岩田地崎建設株式会社 2023年度 SDGs取り組み状況と実績

(2023年4月1日～2024年3月31日)

課題	キーワード	活動内容	2023年度指標(KPI)	2023年度目標	2023年度実績	評価(※1)
持続可能な企業活動	コンプライアンスの推進 ガバナンスの強化	役職員へのコンプライアンス研修実施回数(本社、各支店での開催)	8回/年	7回/年	○	
		重大な違反の件数	0件/年	0件/年	○	
	情報セキュリティの強化	セキュリティに関する情報発信、管理室での常時監視	情報漏えい(セキュリティ事故)件数 継続的改善・強化	0件/年	0件/年	○
		情報セキュリティポリシーの構築	継続	策定中	策定	○
		BCP(事業継続計画)の推進	前年度訓練の評価に基づくより実践的な災害発生時の行動確立	継続	1回/年	1回/年
						○
地域・社会への貢献	学校教育分野における活動	インターンシップの取り組みの深化	インターンシップの満足度向上	指標設定	設定完了	○
		職場体験学習等の開催・協力	開催・協力件数	3件/年以上	7件/年	○
	地域・社会への貢献	地域の歴史・文化活動への参画	イベント地域貢献活動への参画件数	150件/年以上	142件/年	○
		災害時の地域への対応	地域へ貢献できる手法の検討	—	—	—
環境保全への取り組み	生物多様性の保全への取り組み	緑の水田プロジェクトの継続実施	プロジェクトの継続と拡充	—	—	—
		緑の森林プロジェクトの継続実施	プロジェクトの継続と発展	—	—	—
		CO ₂ 排出量削減	算定システム導入、試行、スコープ1、2の排出量検証、スコープ3を含めた排出量の削減目標の設定	検証済み 目標設定中	○	
			CO ₂ 排出量の削減			
快適な職場環境の実現	週休二日(現場閉所)に向けた取り組み	週休二日(現場閉所)の実現に向けた環境整備	全作業所の4週8閉所の定着化		継続推進	
	多様な人材のエンゲージメントの向上	多様な人材の確保活躍推進	ダイバーシティの推進、多様性のある人材の確保育成に向けた新卒女性社員・中途社員・外国人の採用比率	25%	55%	○
		ワーク・ライフ・バランスに向けた職場環境整備	働きがいのある職場環境づくりを目指した具体的な取り組み推進	—	—	—
		社員への教育制度の充実	人事評価制度の見直し 管理職への考課者研修実施	1Set	1Set実施	○
持続可能な建設業の技術	土木・建築・環境分野の技術	積雪寒冷地ならではの技術の活用 スマート技術(ICT技術等)の導入推進 脱炭素社会に向けた新技術の推進	有効な技術の活用推進		継続推進	
		持続可能な取り組みへの拡大	SDGsアクションポイントシステム開始		継続推進	
	まちづくりへの貢献	街並みと賑わいを創出する再開発事業への参画	事業推進を担うパートナーとしての事業継続		継続推進	
		災害復旧への貢献	被災した施設の早期機能復旧への貢献	防災協定の締結 復旧・復興への積極的協力	災害復旧工事依頼に対する対応 100%	100%
持続可能な社会の実現	パートナーシップの推進	産学官連携プロジェクトの推進	異業種企業との対話、共同研究実施、セミナー等への出席率	90%	88%	○
	国際協力の推進	グローバルな視点における持続可能な社会実現のための海外支援	開発途上国のプロジェクト継続件数	2件/年	3件/年	○

※1… 評価の目安 ○: 80%以上の達成 △: 50～80%の達成 ×: 50%未満の達成 —: 評価対象なし

2022年に迎えた創業100周年を節目に
ミッション・ビジョンが策定されました。
私たちは、次の100年へ向け、挑戦を続けます。

ミッション

社会における私たちの存在意義

安心で豊かな社会環境づくりに貢献する

ビジョン

私たちの志・目指す姿

人と自然の
最適環境をつくる
企業

技術と経験と創意を
集結し、時代に合わせた
人のくらしと未来の
あり方を追求します。

地域から
頼りにされる企業

地域とのつながりを
大切にし、真に頼られ、
親しまれる企業を目指
します。

個々の成長を
促す企業

互いを認め合い、一人
ひとりが個性や能力を
発揮できる、チャレンジ
精神と創造性にあふれた
社内風土を築きます。

チャレンジ

ZERO
カーボンニュートラル
の実現

気候変動リスクや
自然災害リスク低減
への貢献

安心安全な暮らし
の実現

本当の安全と安心を
手にする未来へ向けて

循環型社会
の実現

廃棄物ゼロを
目指して

自然と共生する
社会の実現

人と自然が共生できる
未来づくりを

未来へ向かって
岩田地崎建設が目指すSDGs



その他の活動報告(TOPICS)

持続可能な社会の実現にむけて、私たちは多様な活動を展開しています。

こちらでは、その一部を紹介いたします。

※紙面の都合で掲載できないコンテンツやその他の事業活動については岩田地崎建設Webサイトに掲載しています。

TOPICS 01 再生可能エネルギーの推進を目指し 洋上風力1300t吊りSEP船を共同保有

当社を含む戸田建設(株)、(株)熊谷組、西松建設(株)、若築建設(株)、(株)吉田組の6社は、洋上風力発電の推進を目指し、SEP船の共同保有を目的とした調達契約を締結しました。

SEP船は今後日本に導入される1万5000kW級の大型洋上風車の建設に対応可能であり、ゼネコンとマリコンの技術力・知見を融合し洋上風力市場への取り組みを推進します。

北海道は洋上風力発電のポテンシャルが大きく、政府が掲げる2040年導入目標の約3分の1を担うことが想定されています。今回の洋上風力市場への参入は、当社の中期経営計画に定めた「自然エネルギー環境分野への貢献」の実現にむけた具体的な第一歩となります。



TOPICS 03 緑の森林プロジェクト

当社のミッション『安心で豊かな社会環境づくりに貢献する』、そしてビジョンのひとつでもある『人と自然の最適環境をつくる企業』の実現を目指す取り組みの一環として、森の適正な整備・木材の利用推進、さらに脱炭素社会や循環型社会の実現、そして

生物多様性保全への貢献活動として2022年よりスタートした「緑の森林プロジェクト」。

昨年度は、岩見沢市万字線鉄道公園周辺にて、役職員とその家族合わせて47名が参加し、エゾヤマザクラ100本を植樹しました。



TOPICS 02 ゼロカーボン北海道の実現へ! 産学官連携による取り組み

2023年9月、当社4階大会議室にて、岩田地崎建設株式会社、株式会社MORESCO、国立大学法人大阪大学、北海道興部町の4者によるゼロカーボン北海道の実現へ向けた「興部カーボンニュートラルイノベーション事業」の開始に伴い、記者発表会を行いました。

本事業は、酪農を基幹産業とする北海道興部町で、大阪大学が開発した世界初の「メタン酸化技術」を活用し、家畜ふん尿由来のバイオガスから常温・常圧下でギ酸とメタノールを直接連続製造する設備の実用化を図るもので、今後は同4者によるコンソーシアムにて事業を推進し、令和8年3月末までの3か年でパイロットスケール装置の開発を目指します。

私たちは産学官連携によるゼロカーボン北海道の実現を目指すとともに、地域課題の解決へ向け事業を推進してまいります。



TOPICS 04 緑の水田プロジェクト

「緑の水田プロジェクト」は地域の活性化・景観の保全・水田特有の生態系保全などを目的として活動を開始し、昨年度で8年目を迎えました。4年ぶりに人数制限なしで開催された昨年は、5月に田植え、9月に稻刈りを実施、ぬかるんだ泥に足を取られながらも、鎌を手に、手作業で収穫を行いました。



TOPICS 05 「環境広場ほっかいどう2023」他 楽しみながら学べるブースを企画・出展



2023年9月、札幌市内で開催されたG7気候・エネルギー・環境大臣会合に合わせ、札幌ドームにて同時開催された『環境広場ほっかいどう2023』。当社は「環境×建築」をテーマとしたブースを出展し、「カーボンニュートラル」「防災減災」「自然との共生」などSDGsへの取り組みについてのパネル展示を実施しました。

来場者の方々には、楽しみながら建設と環境・SDGsとの関わりに关心を持っていただけるよう、アプリを使用したクイズ形式のイベントも実施、前回の環境広場さっぽろ2022を上回るご参加をいただきました。



FUN MORE 創成 EAST

「創成イーストエリア」活性化プロジェクトとして、サッポロファクトリー煙突広場にて開催。当社も近隣企業としてブース出展し、約300名の方々にご参加いただきました。



SDGs推進委員会メッセージ



岩田地崎建設が目指す SDGs

「建設事業を通して 様々な社会の問題解決に貢献する」

岩田地崎建設の事業活動である建設事業は、その事業規模や社会的位置づけから、社会と環境全体に及ぼす影響が大きな業種です。

私たちの目標はSDGsへの取り組みや活動をより積極的に展開することで日本の建設業全体が「持続可能な社会の発展へ向け大きく貢献できる産業」へと成長を続けることです。

そのためには、我々一人ひとり、一つひとつの企業の力だけ

TOPICS 06 地球規模でのSDGsへの寄与を目指し 多様な地域で展開する海外事業

日本政府(JICA)が実施した政府開発援助:ODA(無償資金協力事業)で、カリブ海の島嶼国アンティグア・バーブーダ島のバーブーダ島において、漁獲した水産物が輸出可能となる水産複合施設を建設した案件では、島に水道設備がなく地下水にも塩分が含まれているため、コンクリート工事に必要な淡水は、日本から持ち込んだ脱塩・淡水化装置で地下水を淡水化して練り混ぜ水を調達することで高品質な施工を実現し、竣工後には現地自治体に脱塩・淡水化装置を寄贈いたしました。

また、竣工後の2017年に最大瞬間風速82m/sとなるハリケーン・イルマの直撃を受け、島のほとんどの建物が損壊する中、当施設は災害を免れ避難拠点や災害復興基地としても機能したことでも評価され、「海外インフラプロジェクト技術者認定・表彰制度」において国土交通大臣賞を受賞しています。

私たちは、建設事業を通じたSDGs目標達成へ向け、日本国内のみならず地球規模での寄与を目指し、様々な国と地域で海外事業の展開を継続します。



ではなく、多くの力がSDGsによって束ねられることにより、さらに大きな力で社会的課題の解決につながっていくものと考えています。

2030年までに取り組むSDGsは、半分を折り返したところです。今一度、取り組みを振りかえり、今後どのように進化していくか考えながら、SDGsの体制をより一層強化し、社会課題の解決へ向け挑戦を続けます。